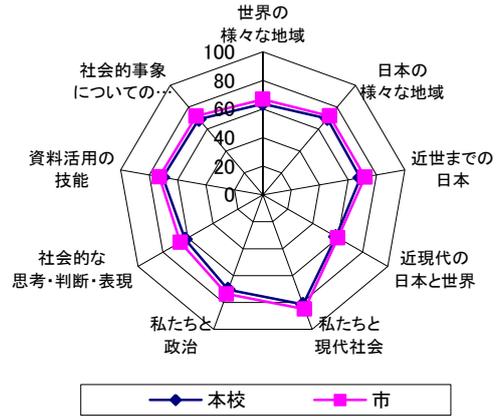


宇都宮市立陽南中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	世界の様々な地域	63.7	66.8	54.1
	日本の様々な地域	69.7	72.1	63.4
	近世までの日本	68.7	72.0	62.0
	近現代の日本と世界	58.5	60.0	55.2
	私たちと現代社会	81.4	85.0	73.0
	私たちと政治	70.4	73.7	71.2
観点別	社会的な思考・判断・表現	62.2	66.1	52.0
	資料活用の技能	70.5	72.8	63.0
	社会的な事象についての知識・理解	69.0	72.0	64.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	世界の様々な地域 ●「原油の産出量が多く、消費量も多い国」というように複数の条件を組み合わせた問題や、根拠を明確にしながらグラフを判別するというような問題の正答率が低くなっている。	グラフや表をただ読みとるのではなく、そうなる理由や根拠を考察・明示する習慣を身につけたい。また、一見すると見たことのないグラフや表であっても、よく見れば読みとれるということに気づかせたい。
	日本の様々な地域 ○札幌の雨温図を判別する問題については、正答率が市の平均を上回った。 ●グラフの形状から、人口・出生率・65歳以上の人口の割合のいずれかを判別する問題の正答率が低調であった。	ぱっと見ただけでは判別できないものや、授業等で目にしたことのないグラフになると、「面倒」「どうせ読みとれない」という意識が出るのかもしれない。グラフそのものをよく見て、じっくり判断させるようにしたい。
歴史	近世までの日本 ○四大工業地帯のグラフから、中京工業地帯のものを選ぶ問題については、正答率が市の平均を上回っている。 ●中央高地の抑制栽培、北陸の地場産業に関する問題について、正答率が低くなっている。	「それらしいもの」を安直に判断している可能性が考えられる。じっくりよく考え、根拠にもとづいて選択肢を慎重に吟味する習慣をつけさせたい。
	近現代の日本と世界 ●奈良時代における税制の広まり、および江戸時代の農業生産性の向上に関する問題で正答率が低くなっている。いずれも短文で説明させる問題である。	自分の考えを文章で的確に表現できるよう、日頃からの訓練が必要である。
公民	私たちと現代社会 ●家電製品の普及状況を表したグラフの読みとりについて、正答率が低くなっている。	生徒の身近な生活に関わる問題であり、推測・判断する力を養っていく必要がある。
	私たちと政治 ●「公共の福祉」という語句は定着している一方で、「議員内閣制」という語句、「三審制」の理由については、正答率が低くなっている。	基本的な語句や図表の理解・整理を徹底させていく必要がある。